

旅行者の目に映る檜山



檜山管内7町が連携し、東京都内に住む方々を対象としたモニターツアーが、3月23・26・27日の3回に分け、それぞれ3日間の日程で行われ、合計65名が檜山各所を訪れました。

今回のモニターツアーは、東京都に住む方々の目線で私たちが住んでいて気がつかない地域の個性・価値・こだわり等を発掘することを目的に行われました。

本町は、3回全てのツアールートに組み込まれ、道の駅もんじゅ、勝山館跡や旧笹浪家住宅等の見学のほか、7町の特産品と旬の食材を使った料理が提供されました。

25日には、モニターツアーで訪れた、青山学院大学で地域交流・まちづくり等を研究している学生



と先生41名との意見交換が江差町・今金町で開催され、若者の視点から様々な意見が出されました。出された意見で多かったのは、私たちが見慣れた『自然景観』と、食べ慣れた『食』に関し、好意的なものも多く、『東京都の人たちは、檜山をほとんど知らない。インターネット等を活用し、もっとPRした方がいい』との意見もありました。

この取組みは、来年度以降も継続的に実施する予定となっており、こうした外部からとり入れた意見を参考とし、地域の幅広い関係者が一体となって、観光を軸とした交流人口の拡大の取り組みを進めていきます。

北海道新幹線開業！ 開業イベントで本町をPR



3月26日、北海道新幹線の開業に伴う歓迎セレモニーが木古内駅で開催されました。

会場ではセレモニーのほか、PRイベントが開催され、渡島西部・檜山南部9町の「食」と「文化」をテーマとした『旬感・千年北海道 食と文化のフェスティバル』として、新幹線や近隣エリアから訪れる方々に本町の魅力をアピールしました。

イベントには、道の駅もんじゅや夷王亭が来店し、「てつくい天井」や「ほっけの煮茶漬」などが好評を博していました。

本町から最寄りの木古内駅は、アクセスのいい新幹線の乗降駅ということもあり、今後の交流人口拡大にどう結びつけるかが大きな課題となっていますが、こうした活動によって本町の魅力が少しずつ広がり、来町者の増加に繋がることが期待されます。

道の駅もんじゅにて 電気自動車充電器が運用開始



4月1日、道の駅もんじゅに電気自動車（EV車）の充電スタンドが設置されました。

電気自動車は、近年、資源制約や環境問題への関心の高まりを背景に、注目を集めています。

充電時間は急速充電で20分ほどかかり、ガソリン車の給油時間と比べると時間がかかりませんが、燃料費が安いのが魅力です。

電気自動車の航続距離が延び、充電器設置箇所が増えたことから電気自動車は普及しつつあり、今後は檜山地域の電気自動車の充電拠点として、道の駅もんじゅを訪れる旅行者が増えることを期待しています。

